

日本で最も大きいお札と 最も小さいお札は？

皆さんは、わが国で製造・発行されたお札の中で一番大きいお札は何か、そしてそのサイズはどれくらいご存知ですか？

それは、1891年（明治24年）に発行された藤原鎌足が描かれた「改造百円券」で、大きさは、縦130 mm、横210 mmというものです。これは、現行の一万円券より縦横ともに50 mmほど大きいお札で、A4サイズ（この冊子のサイズ）の約半分の大きさと言えばイメージしやすいかもしれません。

ちなみに、世界に目を転じると、1375年（天授元年）に発行された中国明代の「大明通行宝鈔」だいみん つうこう ほうしやう（縦338 mm、横220 mmでA4サイズよりやや大きい）が最も大きいお札とされています。

では、わが国で一番小さいお札は何かというと、1948年（昭和23年）に発行された「A五銭券」です。梅の花が描かれたこのお札は、縦48 mm、横94 mmと小型で、戦後すぐに発行された小額券だったこともあって、すかしもなく、記号だけが印刷された簡単なお札でした。



A五銭券



改造百円券



大明通行宝鈔

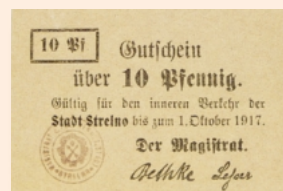
コラム

世界の小さいお札

なお、世界の小さいお札にはどのようなものがあるかというと、1915年（大正4年）から1919年（同8年）にロシアで発行された「切手紙幣」（縦31 mm、横24 mm）のほか、第一次大戦の戦中戦後、1914年（同3年）から1923年（同12年）のドイツでの超インフレ時代に州・市町村単位で発行された「ノートゲルト」という小額代用紙幣が挙げられ、縦横ともに18 mmというものもあったとされています。



切手紙幣



ノートゲルト